

九州地方整備局の事業進捗等について

事業名 (箇所名)	実施箇所	事業期間等	総事業費(億円) 上段:前回評価時 下段:現時点	事業を巡る社会経済情勢等の変化	主な事業の進捗状況	主な事業の進捗の見込み	コスト縮減や代替案等の可能性
国道497号 今宿道路	自:福岡県福岡市 至:福岡県糸島市	昭和45年度事業化 昭和47年度用地着手 昭和47年度工事着手	2,746 2,791	・地元情勢の変化等事業を巡る社会経済情勢等に大きな変化が見られない	用地進捗率:約93% 事業進捗率:約81% (令和4年3月末時点) 昭和58年度: 上深江交差点～糸島市二丈福井間 延長5.8km(一般部2/4)部分開通 昭和63年度: 真方交差点～東交差点間 延長0.5km(一般部2/2)部分開通 平成4年度: 波多江交差点～有田中央交差点間 延長2.2km(一般部2/4)部分開通 平成10～15年度: 福重JCT～東交差点間 延長14.5km(自専部4/4)部分開通 平成16年度: 東交差点～上深江交差点間 延長3.0km(一般部2/2)部分開通 平成18年度: 青果市場入口交差点～ 飯氏交差点間 延長7.4km(一般部4/4)部分開通 平成25年度: 飯氏交差点～波多江交差点間 延長1.7km(一般部4/4)部分開通 平成26年度: 波多江交差点～有田中央交差点間 延長2.2km(一般部4/4)部分開通	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度は以下内容を実施 調査推進 調査設計 用地買収推進 東地区ほか用地買収 工事推進 東地区改良工 糸島高架橋ほか下部工 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続きコスト縮減に取り組んでいく。 技術の進展に伴う新工法の採用等による新たなコスト縮減に努めながら事業を推進する。 建設発生土の有効活用や新技術の活用等によりコスト縮減を図る。

九州地方整備局の事業進捗等について

事業名 (箇所名)	実施箇所	事業期間等	総事業費(億円) 上段:前回評価時 下段:現時点	事業を巡る社会経済情勢等の変化	主な事業の進捗状況	主な事業の進捗の見込み	コスト縮減や代替案等の可能性
国道208号 有明海沿岸道路 (大牟田～大川)	自:福岡県大牟田市 至:福岡県大川市	昭和63年度事業化 平成2年度用地着手 平成12年度工事着手	2,555 2,555	・地元情勢の変化等事業を巡る社会経済情勢等に大きな変化が見られない	用地進捗率:約96% 事業進捗率:約84% (令和4年3月末時点) 平成19年度: 大牟田IC～高田IC間 延長9.8km(自専部2/4)開通 柳川西IC～大川東IC間 延長2.4km(自専部2/4)開通 平成20年度: 高田IC～大和南IC間 延長2.0km(自専部2/4)開通 平成23年度: 三池港IC～大牟田IC間 延長1.9km(自専部2/4)開通 平成24年度: 大和南IC～徳益IC間 延長3.2km(自専部2/4)開通 平成29年度: 徳益IC～柳川西IC間 延長4.5km(自専部2/4)開通 令和2年度: 大川東IC～大野島IC 延長3.7km(自専部2/4)開通	・令和4年度は以下内容を実施 ・調査推進 調査設計 ・用地買収推進 四ツ山地区用地買収 南新地地区公共施設管理者負担金 ・工事推進: 新港地区改良工 三池港IC橋下部工 大島高架橋下部工	・引き続きコスト縮減に取り組んでいく。 ・技術の進展に伴う新工法の採用等による新たなコスト縮減に努めながら事業を推進する。 ・建設発生土の有効活用や新技術の活用等によりコスト縮減を図る。
国道208号 大川佐賀道路	自:福岡県大川市 至:佐賀県佐賀市	平成13年度事業化 平成24年度用地着手 平成27年度工事着手	898 986	・地元情勢の変化等事業を巡る社会経済情勢等に大きな変化が見られない	用地進捗率:約65% 事業進捗率:約46% (令和4年3月末時点)	・令和4年度は以下内容を実施 ・調査推進: 調査設計 ・用地買収推進: 川副地区ほか用地買収 ・用地補償: 支障物件移設補償 ・工事推進: 諸富地区ほか改良工 川副1号橋下部工・上部工 諸富地区舗装工 大野島地区舗装工 ・大野島IC～諸富IC L=1.7km(自専部2/4) 令和4年度開通予定	・引き続きコスト縮減に取り組んでいく。 ・技術の進展に伴う新工法の採用等による新たなコスト縮減に努めながら事業を推進する。 ・建設発生土の有効活用や新技術の活用等によりコスト縮減を図る。

九州地方整備局の事業進捗等について

事業名 (箇所名)	実施箇所	事業期間等	総事業費(億円) 上段:前回評価時 下段:現時点	事業を巡る社会経済情勢等の変化	主な事業の進捗状況	主な事業の進捗の見込み	コスト縮減や代替案等の可能性
国道3号 岡垣バイパス	自:福岡県遠賀郡岡垣町 至:福岡県宗像市	平成30年度事業化 平成30年度工事着手	87 87	・地元情勢の変化等事業を巡る社会経済情勢等に大きな変化が見られない	用地進捗率:100% 事業進捗率:約60% (令和4年3月末時点)	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度は以下内容を実施 調査推進: 調査設計 用地補償: 支障物件移設補償 工事推進: 野間高架橋ほか上部工 城山トンネル工 岡垣トンネルほか舗装工 岡垣トンネルほか付属物工 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続きコスト縮減に取り組んでいく。 技術の進展に伴う新工法の採用等による新たなコスト縮減に努めながら事業を推進する。 建設発生土の有効活用や新技術の活用等によりコスト縮減を図る。
国道3号 鳥栖久留米道路	自:佐賀県鳥栖市 至:福岡県久留米市	平成19年度事業化 平成21年度用地着手 平成23年度工事着手	387 387	・地元情勢の変化等事業を巡る社会経済情勢等に大きな変化が見られない	用地進捗率:約93% 事業進捗率:約50% (令和4年3月末時点)	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度は以下内容を実施 調査推進: 調査設計 用地買収推進: 合川地区ほか用地買収 用地補償: 支障物件移設補償 工事推進: 宮ノ陣地区改良工 水屋地区ほか改良工 思案橋川橋下部工 宮ノ陣1号橋ほか上部工 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続きコスト縮減に取り組んでいく。 技術の進展に伴う新工法の採用等による新たなコスト縮減に努めながら事業を推進する。 建設発生土の有効活用や新技術の活用等によりコスト縮減を図る。
国道201号 八木山バイパス	自:福岡県糟屋郡篠栗町 至:福岡県飯塚市	平成31年度事業化 令和2年度工事着手	381 381	・地元情勢の変化等事業を巡る社会経済情勢等に大きな変化が見られない	用地進捗率:100% 事業進捗率:約28% (令和4年3月末時点)	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度は以下内容を実施 調査推進: 調査設計 用地補償: 支障物件移設補償 工事推進: 篠栗地区改良工 筑前山手橋ほか上部工 花廻第一橋ほか床版工 筑穂トンネル工 九郎原トンネル工着手 篠栗IC～筑穂IC L=5.6km(4/4) 令和6年度開通予定 筑穂IC～穂波東IC L=7.7km(4/4) 令和11年度開通予定 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続きコスト縮減に取り組んでいく。 技術の進展に伴う新工法の採用等による新たなコスト縮減に努めながら事業を推進する。 建設発生土の有効活用や新技術の活用等によりコスト縮減を図る。

九州地方整備局の事業進捗等について

事業名 (箇所名)	実施箇所	事業期間等	総事業費(億円) 上段:前回評価時 下段:現時点	事業を巡る社会経済情勢等の変化	主な事業の進捗状況	主な事業の進捗の見込み	コスト縮減や代替案等の可能性
国道201号 香春拡幅	自:福岡県田川郡香春町 至:福岡県田川郡香春町	平成20年度事業化 平成24年度用地着手 平成28年度工事着手	101 101	・地元情勢の変化等事業を巡る社会経済情勢等に大きな変化が見られない	用地進捗率:100% 事業進捗率:約59% (令和4年3月末時点)	・令和4年度は以下内容を実施 ・調査推進: 調査設計 ・用地補償: 支障物件移設補償 ・工事推進: 新朝倉橋ほか上部工 鏡山地区舗装工	・引き続きコスト縮減に取り組んでいく。 ・技術の進展に伴う新工法の採用等による新たなコスト縮減に努めながら事業を推進する。 ・建設発生土の有効活用や新技術の活用等によりコスト縮減を図る。
国道201号 仲哀拡幅	自:福岡県田川郡香春町 至:福岡県京都郡みやこ町	令和4年度事業化	84 84	・地元情勢の変化等事業を巡る社会経済情勢等に大きな変化が見られない	用地進捗率:100% 事業進捗率:0% (令和4年3月末時点)	・令和4年度は以下内容を実施 ・調査推進: 調査設計	・引き続きコスト縮減に取り組んでいく。 ・技術の進展に伴う新工法の採用等による新たなコスト縮減に努めながら事業を推進する。 ・建設発生土の有効活用や新技術の活用等によりコスト縮減を図る。
国道210号 浮羽バイパス	自:福岡県久留米市 至:福岡県うきは市	昭和48年度事業化 昭和52年度用地着手 昭和54年度工事着手	276 276	・地元情勢の変化等事業を巡る社会経済情勢等に大きな変化が見られない	用地進捗率:約98% 事業進捗率:約93% (令和4年3月末時点) 昭和58年度～平成19年度: 板町北交差点～ 田主丸中学校北交差点間 延長0.4km(2/4)部分開通 船越小学校北交差点～ 今川通交差点間 延長8.3km(2/4)部分開通 今川通交差点～百堂坂交差点間 延長1.7km(2/2)部分開通 平成21～25年度: 田主丸中学校北交差点～ 船越小学校北交差点間 延長2.5km(2/4)部分開通	・令和4年度は以下内容を実施 ・調査推進: 調査設計 ・用地買収推進: 豊城地区ほか用地買収 ・用地補償: 支障物件移設補償 ・工事推進: 豊城地区改良工	・引き続きコスト縮減に取り組んでいく。 ・技術の進展に伴う新工法の採用等による新たなコスト縮減に努めながら事業を推進する。 ・建設発生土の有効活用や新技術の活用等によりコスト縮減を図る。

九州地方整備局の事業進捗等について

事業名 (箇所名)	実施箇所	事業期間等	総事業費(億円) 上段:前回評価時 下段:現時点	事業を巡る社会経済情勢等の変化	主な事業の進捗状況	主な事業の進捗の見込み	コスト削減や代替案等の可能性
国道3号 黒崎バイパス	自:福岡県北九州市 至:福岡県北九州市	平成3年度事業化 平成5年度用地着手 平成10年度工事着手	875 945	・地元情勢の変化等事業を巡る社会経済情勢等に大きな変化が見られない	用地進捗率:100% 事業進捗率:約96% (令和4年3月末時点) 平成20年度: 黒崎北ランプ～陣原ランプ間 延長2.9km(2/4)部分開通 平成23年度: 前田ランプ～皇后崎ランプ間 延長2.9km(4/4)開通 平成24年度: 東田ランプ～前田ランプ間 延長0.9km(2/4)部分開通	・令和4年度は以下内容を実施 ・調査推進: 調査設計 ・用地補償: 支障物件移設補償 ・工事推進: 黒崎西ランプ橋下部工 黒崎西ランプ橋上部工 春の町地区ほか舗装工 春の町地区ほか道路付属物工 ・春の町ランプ～前田ランプ L=1.5km(2/2)(4/4) 令和4年度開通予定 ・陣原オンランプ 令和4年度開通予定	・引き続きコスト削減に取り組んでいく。 ・技術の進展に伴う新工法の採用等による新たなコスト削減に努めながら事業を推進する。 ・建設発生土の有効活用や新技術の活用等によりコスト削減を図る。
国道3号 博多バイパス (下臼井～空港口)	自:福岡県福岡市 至:福岡県福岡市	令和4年度事業化	360 360	・地元情勢の変化等事業を巡る社会経済情勢等に大きな変化が見られない	用地進捗率:0% 事業進捗率:0% (令和4年3月末時点)	・令和4年度は以下内容を実施 ・調査推進: 調査設計	・引き続きコスト削減に取り組んでいく。 ・技術の進展に伴う新工法の採用等による新たなコスト削減に努めながら事業を推進する。 ・建設発生土の有効活用や新技術の活用等によりコスト削減を図る。
国道497号 伊万里道路	自:佐賀県伊万里市 至:佐賀県伊万里市	平成7年度事業化 平成22年度用地着手 平成28年度工事着手	339 339	・地元情勢の変化等事業を巡る社会経済情勢等に大きな変化が見られない	用地進捗率:約94% 事業進捗率:約43% (令和4年3月末時点)	・令和4年度は以下内容を実施 ・調査推進: 調査設計 ・用地買収推進: 長浜地区ほか用地買収 ・用地補償: 支障物件移設補償 ・工事推進: 脇田地区ほか改良工 藤の尾池橋下部工	・引き続きコスト削減に取り組んでいく。 ・技術の進展に伴う新工法の採用等による新たなコスト削減に努めながら事業を推進する。 ・建設発生土の有効活用や新技術の活用等によりコスト削減を図る。

九州地方整備局の事業進捗等について

事業名 (箇所名)	実施箇所	事業期間等	総事業費(億円) 上段:前回評価時 下段:現時点	事業を巡る社会経済情勢等の変化	主な事業の進捗状況	主な事業の進捗の見込み	コスト縮減や代替案等の可能性
国道497号 伊万里松浦道路	自:佐賀県伊万里市 至:長崎県松浦市	平成9年度事業化 平成19年度用地着手 平成20年度工事着手	712 712	・地元情勢の変化等事業を巡る社会経済情勢等に大きな変化が見られない	用地進捗率:約63% 事業進捗率:約62% (令和4年3月末時点) 平成26年度: 山代久原IC~今福IC間 延長5.5km(2/2)部分開通 平成29年度: 今福IC~調川IC間 延長2.6km(2/2)部分開通 平成30年度: 調川IC~松浦IC間 延長2.2km(2/2)部分開通	・令和4年度は以下内容を実施 ・調査推進: 調査設計 ・用地買収推進: 楠久地区ほか用地買収 ・工事: 楠久地区取得用地管理工事	・引き続きコスト縮減に取り組んでいく。 ・技術の進展に伴う新工法の採用等による新たなコスト縮減に努めながら事業を推進する。 ・建設発生土の有効活用や新技術の活用等によりコスト縮減を図る。
国道203号 多久佐賀道路(Ⅰ期)	自:佐賀県多久市 至:佐賀県小城市	平成15年度事業化	280 280	・地元情勢の変化等事業を巡る社会経済情勢等に大きな変化が見られない	用地進捗率: 0% 事業進捗率:約5% (令和4年3月末時点)	・令和4年度は以下内容を実施 ・調査推進: 調査設計	・引き続きコスト縮減に取り組んでいく。 ・技術の進展に伴う新工法の採用等による新たなコスト縮減に努めながら事業を推進する。 ・建設発生土の有効活用や新技術の活用等によりコスト縮減を図る。
国道3号 鳥栖拡幅	自:佐賀県鳥栖市 至:佐賀県鳥栖市	平成20年度事業化 平成25年度用地着手 平成29年度工事着手	112 112	・地元情勢の変化等事業を巡る社会経済情勢等に大きな変化が見られない	用地進捗率:約93% 事業進捗率:約71% (令和4年3月末時点)	・令和4年度は以下内容を実施 ・調査推進: 調査設計 ・用地買収推進: 原地区ほか用地買収 ・用地補償: 支障物件移設補償 ・工事推進: 曾根崎地区ほか改良工 八坂橋下部工	・引き続きコスト縮減に取り組んでいく。 ・技術の進展に伴う新工法の採用等による新たなコスト縮減に努めながら事業を推進する。 ・建設発生土の有効活用や新技術の活用等によりコスト縮減を図る。

九州地方整備局の事業進捗等について

事業名 (箇所名)	実施箇所	事業期間等	総事業費(億円) 上段:前回評価時 下段:現時点	事業を巡る社会経済情勢等の変化	主な事業の進捗状況	主な事業の進捗の見込み	コスト縮減や代替案等の可能性
国道34号 神崎佐賀拡幅	自:佐賀県神崎市 至:佐賀県佐賀市	平成4年度事業化 平成7年度用地着手 平成12年度工事着手	153 153	・地元情勢の変化等事業を巡る社会経済情勢等に大きな変化が見られない	用地進捗率:約46% 事業進捗率:約84% (令和4年3月末時点) 平成17年度: 上犬童交差点～堀立西交差点間 延長0.8km(4/4)開通 平成22年度: 堀立西交差点～下淵交差点間 延長2.1km(4/4)開通 平成27年度: 姉川地区 延長0.5km(2/4)橋架替完了	・令和4年度は以下内容を実施 ・調査推進: 調査設計 ・用地買収推進: 上犬童地区用地買収 ・工事: 上犬童地区取得用地管理工事	・引き続きコスト縮減に取り組んでいく。 ・技術の進展に伴う新工法の採用等による新たなコスト縮減に努めながら事業を推進する。 ・建設発生土の有効活用や新技術の活用等によりコスト縮減を図る。
国道34号 武雄バイパス	自:佐賀県武雄市 至:佐賀県武雄市	昭和49年度事業化 昭和55年度用地着手 昭和57年度工事着手	250 250	・地元情勢の変化等事業を巡る社会経済情勢等に大きな変化が見られない	用地進捗率:約90% 事業進捗率:約75% (令和4年3月末時点) 平成元年度: 武雄市武雄町武雄～ 武雄市北方町大字大崎 延長4.1km(2/4)開通 平成12年度: 武雄市武雄町武雄～ 武雄市武雄町武雄 延長0.8km(4/4)開通 平成29年度: 武雄市北方町大字大崎～ 武雄市北方町大字大崎 延長1.4km(2/4)開通	・令和4年度は以下内容を実施 ・調査推進: 調査設計 ・用地買収推進: 高野地区用地買収 ・工事: 高野地区取得用地管理工事	・引き続きコスト縮減に取り組んでいく。 ・技術の進展に伴う新工法の採用等による新たなコスト縮減に努めながら事業を推進する。 ・建設発生土の有効活用や新技術の活用等によりコスト縮減を図る。
国道202号 唐津バイパス	自:佐賀県唐津市 至:佐賀県唐津市	令和4年度事業化	60 60	・地元情勢の変化等事業を巡る社会経済情勢等に大きな変化が見られない	用地進捗率:100% 事業進捗率: 0% (令和4年3月末時点)	・令和4年度は以下内容を実施 ・調査推進: 調査設計	・引き続きコスト縮減に取り組んでいく。 ・技術の進展に伴う新工法の採用等による新たなコスト縮減に努めながら事業を推進する。 ・建設発生土の有効活用や新技術の活用等によりコスト縮減を図る。

九州地方整備局の事業進捗等について

事業名 (箇所名)	実施箇所	事業期間等	総事業費(億円) 上段:前回評価時 下段:現時点	事業を巡る社会経済情勢等の変化	主な事業の進捗状況	主な事業の進捗の見込み	コスト縮減や代替案等の可能性
国道497号 松浦佐々道路	自:長崎県松浦市 至:長崎県北松浦郡 佐々町	平成26年度事業化 平成27年度用地着手 平成28年度工事着手	907 907	・地元情勢の変化等事業を巡る社会経済情勢等に大きな変化が見られない	用地進捗率:約84% 事業進捗率:約44% (令和4年3月末時点)	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度は以下内容を実施 調査推進: 調査設計 用地買収推進: 乱橋地区ほか用地買収 用地補償: 支障物件移設補償 工事推進: 栗越地区ほか改良工 松浦1号トンネルほかトンネル工 松浦4号橋ほか上部工 松浦5号橋下部工 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続きコスト縮減に取り組んでいく。 技術の進展に伴う新工法の採用等による新たなコスト縮減に努めながら事業を推進する。 建設発生土の有効活用や新技術の活用等によりコスト縮減を図る。
国道57号 森山拡幅	自:長崎県雲仙市 至:長崎県諫早市	昭和63年度事業化 平成8年度用地着手 平成11年度工事着手	594 594	・地元情勢の変化等事業を巡る社会経済情勢等に大きな変化が見られない	用地進捗率:約99% 事業進捗率:約87% (令和4年3月末時点) 平成21年度: 尾崎交差点～長野町交差点 延長1.6km(4/4)開通	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度は以下内容を実施 調査推進: 調査設計 用地買収推進: 杉谷地区ほか用地買収 用地補償: 支障物件移設補償 工事推進: 尾崎地区ほか改良工 下井牟田赤崎高架橋上部工 尾崎高架橋下部工 田尻地区ほか道路付属物工 森山東IC～森山西IC L=3.3km(2/2) 令和5年度開通予定 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続きコスト縮減に取り組んでいく。 技術の進展に伴う新工法の採用等による新たなコスト縮減に努めながら事業を推進する。 建設発生土の有効活用や新技術の活用等によりコスト縮減を図る。

九州地方整備局の事業進捗等について

事業名 (箇所名)	実施箇所	事業期間等	総事業費(億円) 上段:前回評価時 下段:現時点	事業を巡る社会経済情勢等の変化	主な事業の進捗状況	主な事業の進捗の見込み	コスト縮減や代替案等の可能性
国道34号 大村拡幅	自:長崎県大村市 至:長崎県大村市	平成3年度事業化 平成9年度用地着手 平成11年度工事着手	147 147	・地元情勢の変化等事業を巡る社会経済情勢等に大きな変化が見られない	用地進捗率:100% 事業進捗率:約99% (令和4年3月末時点) 平成14年度: 市役所前交差点～ 大村高校前交差点 延長0.5km(4/4)開通 平成20年度: 大村高校前交差点～ 玖島中学校入口交差点 延長0.5km(4/4)開通 平成20年度: 水主町交差点～市役所前交差点 延長1.0km(4/4)開通 平成21年度: 玖島中学校入口交差点～ 国立医療センター入口交差点 延長0.3km(4/4)開通 平成22年度: 国立医療センター入口交差点～ 久原2丁目交差点 延長0.2km(4/4)開通 平成23年度: 久原2丁目交差点～与崎交差点 延長0.7km(4/4)開通	・令和4年度は以下内容を実施 ・調査推進: 調査設計 ・工事推進: 杭出津橋上部工	・引き続きコスト縮減に取り組んでいく。 ・技術の進展に伴う新工法の採用等による新たなコスト縮減に努めながら事業を推進する。 ・新技術の活用等によりコスト縮減を図る。
国道34号 大村諫早拡幅	自:長崎県大村市 至:長崎県諫早市	平成30年度事業化 令和3年度用地着手	160 160	・地元情勢の変化等事業を巡る社会経済情勢等に大きな変化が見られない	用地進捗率:約1% 事業進捗率:約6% (令和4年3月末時点)	・令和4年度は以下内容を実施 ・調査推進: 調査設計 ・用地買収推進: 下大渡野地区用地買収	・引き続きコスト縮減に取り組んでいく。 ・技術の進展に伴う新工法の採用等による新たなコスト縮減に努めながら事業を推進する。 ・建設発生土の有効活用や新技術の活用等によりコスト縮減を図る。

九州地方整備局の事業進捗等について

事業名 (箇所名)	実施箇所	事業期間等	総事業費(億円) 上段: 前回評価時 下段: 現時点	事業を巡る社会経済情勢等の変化	主な事業の進捗状況	主な事業の進捗の見込み	コスト縮減や代替案等の可能性
国道205号 針尾バイパス	自: 長崎県佐世保市 至: 長崎県佐世保市	平成19年度事業化 平成19年度用地着手 平成19年度工事着手	131 131	・地元情勢の変化等事業を巡る社会経済情勢等に大きな変化が見られない	用地進捗率: 100% 事業進捗率: 約68% (令和4年3月末時点) 平成22年度: 有福高架橋～小浦橋間 延長1.7km(4/4)部分開通 平成25年度: 小浦橋～江上交差点間 延長0.7km(4/4)部分開通 令和元年度: 江上交差点立体化	・令和4年度は以下内容を実施 ・調査推進: 調査設計 ・用地補償: 支障物件移設補償 ・工事推進: 崎岡地区改良工	・引き続きコスト縮減に取り組んでいく。 ・技術の進展に伴う新工法の採用等による新たなコスト縮減に努めながら事業を推進する。 ・建設発生土の有効活用や新技術の活用等によりコスト縮減を図る。
九州横断自動車道 延岡線 嘉島JCT～矢部	自: 熊本県上益城郡 嘉島町 至: 熊本県上益城郡 山都町	平成10年度事業化 平成17年度用地着手 平成17年度工事着手	1,094 1,094	・地元情勢の変化等事業を巡る社会経済情勢等に大きな変化が見られない	用地進捗率: 100% 事業進捗率: 約91% (令和4年3月末時点) 平成25年度: 嘉島JCT～小池高山IC間 延長1.8km(2/4)開通 平成30年度: 小池高山IC～山都中島西IC間 延長10.8km(2/4)開通	・令和4年度は以下内容を実施 ・調査推進: 調査設計 ・用地補償: 支障物件移設補償 ・工事推進: 山都地区改良工 山都地区舗装工 ・山都中島西IC～(仮称)矢部IC L=10.4km(2/4) 令和5年度開通予定	・引き続きコスト縮減に取り組んでいく。 ・技術の進展に伴う新工法の採用等による新たなコスト縮減に努めながら事業を推進する。 ・建設発生土の有効活用や新技術の活用等によりコスト縮減を図る。
国道218号 矢部清和道路	自: 熊本県上益城郡 山都町 至: 熊本県上益城郡 山都町	令和4年度事業化	740 740	・地元情勢の変化等事業を巡る社会経済情勢等に大きな変化が見られない	用地進捗率: 0% 事業進捗率: 0% (令和4年3月末時点)	・令和4年度は以下内容を実施 ・調査推進: 調査設計	・引き続きコスト縮減に取り組んでいく。 ・技術の進展に伴う新工法の採用等による新たなコスト縮減に努めながら事業を推進する。 ・建設発生土の有効活用や新技術の活用等によりコスト縮減を図る。
国道218号 蘇陽五ヶ瀬道路	自: 熊本県上益城郡 山都町 至: 宮崎県西臼杵郡 五ヶ瀬町	令和2年度事業化 令和4年度用地着手	320 378	・地元情勢の変化等事業を巡る社会経済情勢等に大きな変化が見られない	用地進捗率: 0% 事業進捗率: 約3% (令和4年3月末時点)	・令和4年度は以下内容を実施 ・調査推進: 調査設計 ・用地買収推進: 滝上地区用地買収着手 三ヶ所地区用地買収着手	・引き続きコスト縮減に取り組んでいく。 ・技術の進展に伴う新工法の採用等による新たなコスト縮減に努めながら事業を推進する。 ・建設発生土の有効活用や新技術の活用等によりコスト縮減を図る。

九州地方整備局の事業進捗等について

事業名 (箇所名)	実施箇所	事業期間等	総事業費(億円) 上段:前回評価時 下段:現時点	事業を巡る社会経済情勢等の変化	主な事業の進捗状況	主な事業の進捗の見込み	コスト縮減や代替案等の可能性
国道3号 芦北出水道路	自:熊本県葦北郡芦北町 至:鹿児島県出水市	平成5年度事業化 平成11年度用地着手 平成20年度工事着手	1,923 1,923	・地元情勢の変化等事業を巡る社会経済情勢等に大きな変化が見られない	用地進捗率:約99% 事業進捗率:約66% (令和4年3月末時点) 平成27年度: 芦北IC~津奈木IC間 延長7.7km(2/4)部分開通 平成30年度: 津奈木IC~水俣IC間 延長5.6km(2/4)部分開通	・令和4年度は以下内容を実施 ・調査推進: 調査設計 ・用地買収推進: 袋地区ほか用地買収 下鯖地区ほか用地買収 ・用地補償: 支障物件移設補償 ・工事推進: 袋地区ほか改良工 前田地区ほか改良工 湯出川橋ほか下部工 六月田橋ほか下部工 野川川橋ほか上部工 美原橋ほか上部工	・引き続きコスト縮減に取り組んでいく。 ・技術の進展に伴う新工法の採用等による新たなコスト縮減に努めながら事業を推進する。 ・建設発生土の有効活用や新技術の活用等によりコスト縮減を図る。
国道57号 竹田阿蘇道路	自:大分県竹田市 至:熊本県阿蘇市	平成31年度事業化 令和3年度用地着手 令和4年度工事着手	688 688	・地元情勢の変化等事業を巡る社会経済情勢等に大きな変化が見られない	用地進捗率:約1% 事業進捗率:約5% (令和4年3月末時点)	・令和4年度は以下内容を実施 ・調査推進: 調査設計 ・用地買収推進: 波野地区用地買収 会々地区ほか用地買収 ・工事推進: 波野IC橋下部工着手 濁淵川橋下部工着手	・引き続きコスト縮減に取り組んでいく。 ・技術の進展に伴う新工法の採用等による新たなコスト縮減に努めながら事業を推進する。 ・建設発生土の有効活用や新技術の活用等によりコスト縮減を図る。
国道57号 滝室坂道路	自:熊本県阿蘇市 至:熊本県阿蘇市	平成25年度事業化 平成29年度用地着手 平成30年度工事着手	636 636	・地元情勢の変化等事業を巡る社会経済情勢等に大きな変化が見られない	用地進捗率:100% 事業進捗率:約46% (令和4年3月末時点)	・令和4年度は以下内容を実施 ・調査推進: 調査設計 ・工事推進: 坂裂地区改良工 滝室坂トンネル工	・引き続きコスト縮減に取り組んでいく。 ・技術の進展に伴う新工法の採用等による新たなコスト縮減に努めながら事業を推進する。 ・建設発生土の有効活用や新技術の活用等によりコスト縮減を図る。
国道57号 大津熊本道路 (大津西~合志)	自:熊本県菊池郡大津町 至:熊本県合志市	令和4年度事業化	310 310	・地元情勢の変化等事業を巡る社会経済情勢等に大きな変化が見られない	用地進捗率:0% 事業進捗率:0% (令和4年3月末時点)	・令和4年度は以下内容を実施 ・調査推進: 調査設計	・引き続きコスト縮減に取り組んでいく。 ・技術の進展に伴う新工法の採用等による新たなコスト縮減に努めながら事業を推進する。 ・建設発生土の有効活用や新技術の活用等によりコスト縮減を図る。

九州地方整備局の事業進捗等について

事業名 (箇所名)	実施箇所	事業期間等	総事業費(億円) 上段:前回評価時 下段:現時点	事業を巡る社会経済情勢等の変化	主な事業の進捗状況	主な事業の進捗の見込み	コスト縮減や代替案等の可能性
国道57号 大津熊本道路 (合志～熊本)	自:熊本県合志市 至:熊本県熊本市	令和2年度事業化 令和4年度用地着手	530 530	・地元情勢の変化等事業を巡る社会経済情勢等に大きな変化が見られない	用地進捗率: 0% 事業進捗率: 約1% (令和4年3月末時点)	・令和4年度は以下内容を実施 ・調査推進: 調査設計 ・用地買収推進: 合生地区ほか用地買収着手	・引き続きコスト縮減に取り組んでいく。 ・技術の進展に伴う新工法の採用等による新たなコスト縮減に努めながら事業を推進する。 ・建設発生土の有効活用や新技術の活用等によりコスト縮減を図る。
国道57号 熊本宇土道路	自:熊本県熊本市 至:熊本県宇土市	平成9年度事業化 平成13年度用地着手 平成18年度工事着手	404 404	・地元情勢の変化等事業を巡る社会経済情勢等に大きな変化が見られない	用地進捗率: 約99% 事業進捗率: 約35% (令和4年3月末時点)	・令和4年度は以下内容を実施 ・調査推進: 調査設計 ・工事: 海路口地区取得用地管理工事 城塚地区取得用地管理工事	・引き続きコスト縮減に取り組んでいく。 ・技術の進展に伴う新工法の採用等による新たなコスト縮減に努めながら事業を推進する。 ・建設発生土の有効活用や新技術の活用等によりコスト縮減を図る。
国道57号 宇土道路	自:熊本県宇土市 至:熊本県宇土市	平成21年度事業化 平成26年度用地着手 平成28年度工事着手	257 434	・地元情勢の変化等事業を巡る社会経済情勢等に大きな変化が見られない	用地進捗率: 約96% 事業進捗率: 約41% (令和4年3月末時点)	・令和4年度は以下内容を実施 ・調査推進: 調査設計 ・用地買収推進: 網津地区ほか用地買収 ・用地補償: 支障物件移設補償 ・工事推進: 城塚地区ほか改良工 長浜橋下部工 笹原トンネル工 糖塚山トンネル工着手	・引き続きコスト縮減に取り組んでいく。 ・技術の進展に伴う新工法の採用等による新たなコスト縮減に努めながら事業を推進する。 ・建設発生土の有効活用や新技術の活用等によりコスト縮減を図る。
国道57号 宇土三角道路	自:熊本県宇土市 至:熊本県宇城市	令和3年度事業化	747 747	・地元情勢の変化等事業を巡る社会経済情勢等に大きな変化が見られない	用地進捗率: 0% 事業進捗率: 約1% (令和4年3月末時点)	・令和4年度は以下内容を実施 ・調査推進: 調査設計	・引き続きコスト縮減に取り組んでいく。 ・技術の進展に伴う新工法の採用等による新たなコスト縮減に努めながら事業を推進する。 ・建設発生土の有効活用や新技術の活用等によりコスト縮減を図る。

九州地方整備局の事業進捗等について

事業名 (箇所名)	実施箇所	事業期間等	総事業費(億円) 上段:前回評価時 下段:現時点	事業を巡る社会経済情勢等の変化	主な事業の進捗状況	主な事業の進捗の見込み	コスト縮減や代替案等の可能性
国道3号 熊本北バイパス	自:熊本県熊本市 至:熊本県熊本市	昭和48年度事業化 昭和51年度用地着 手 昭和60年度工事着 手	814 814	・地元情勢の変化等事業を巡る社会経済情勢等に大きな変化が見られない	用地進捗率: 100% 事業進捗率: 約99% (令和4年3月末時点) 平成3年度: 新南部～陣内西間 延長1.0km(4/4)開通 平成10年度: 陣内西～麻生田間 延長3.2km(2/4)開通 平成13年度: 陣内西～陣内橋間 延長1.0km(4/4)開通 平成15年度: 陣内橋～麻生田間 延長2.2km(4/4)開通 平成19年度: 麻生田～須屋高架橋 延長1.6km(4/4)開通 平成26年度: 須屋高架橋～四方寄町間 延長1.8km(2/4)開通	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度は以下内容を実施 調査推進: 調査設計 工事推進: 四方寄地区改良工 四方寄地区ほか舗装工 国道3号～須屋高架橋交差点 L=1.8km(4/4) 令和4年度開通予定 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続きコスト縮減に取り組んでいく。 技術の進展に伴う新工法の採用等による新たなコスト縮減に努めながら事業を推進する。 建設発生土の有効活用や新技術の活用等によりコスト縮減を図る。
国道3号 植木バイパス	自:熊本県熊本市 至:熊本県熊本市	平成11年度事業化 平成13年度用地着 手 平成19年度工事着 手	308 308	・地元情勢の変化等事業を巡る社会経済情勢等に大きな変化が見られない	用地進捗率: 約99% 事業進捗率: 約73% (令和4年3月末時点) 平成23年度: 熊本市北区植木町大字鞍掛～ 鎧田間 延長2.3km(2/4)部分開通	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度は以下内容を実施 調査推進: 調査設計 用地買収: 鎧田地区ほか用地買収 用地補償: 支障物件移設補償 工事推進: 鹿子木地区ほか改良工 下硯川地区ほか舗装工 熊本西環状道路～国道3号 L=0.9km(2/4) 令和4年度開通予定 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続きコスト縮減に取り組んでいく。 技術の進展に伴う新工法の採用等による新たなコスト縮減に努めながら事業を推進する。 建設発生土の有効活用や新技術の活用等によりコスト縮減を図る。

九州地方整備局の事業進捗等について

事業名 (箇所名)	実施箇所	事業期間等	総事業費(億円) 上段:前回評価時 下段:現時点	事業を巡る社会経済情勢等の変化	主な事業の進捗状況	主な事業の進捗の見込み	コスト縮減や代替案等の可能性
国道212号 三光本耶馬溪道路	自:大分県中津市 至:大分県中津市	平成19年度事業化 平成21年度用地着手 平成22年度工事着手	576 576	・地元情勢の変化等事業を巡る社会経済情勢等に大きな変化が見られない	用地進捗率:約99% 事業進捗率:約70% (令和4年3月末時点) 平成30年度: 中津IC~田口IC間 延長2.8km(2/2)開通	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度は以下内容を実施 調査推進: 調査設計 用地買収推進: 跡田地区用地買収 用地補償: 支障物件移設補償 工事推進: 三光田口地区ほか改良工 長野橋下部工 跡田川橋上部工 三光第3号トンネル舗装工 跡田トンネル工 田口IC~青の洞門・羅漢寺IC L=5.3km(2/2) 令和5年度開通予定 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続きコスト縮減に取り組んでいく。 技術の進展に伴う新工法の採用等による新たなコスト縮減に努めながら事業を推進する。 建設発生土の有効活用や新技術の活用等によりコスト縮減を図る。
国道10号 高江拡幅	自:大分県大分市 至:大分県大分市	平成26年度事業化 平成28年度用地着手 平成31年度工事着手	110 110	・地元情勢の変化等事業を巡る社会経済情勢等に大きな変化が見られない	用地進捗率:約47% 事業進捗率:約38% (令和4年3月末時点)	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度は以下内容を実施 調査推進: 調査設計 用地買収推進: 鶴野地区ほか用地買収 用地補償: 支障物件移設補償 工事推進: 中判田地区改良工 昆布刈橋下部工 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続きコスト縮減に取り組んでいく。 技術の進展に伴う新工法の採用等による新たなコスト縮減に努めながら事業を推進する。 建設発生土の有効活用や新技術の活用等によりコスト縮減を図る。
国道210号 横瀬拡幅	自:大分県大分市 至:大分県大分市	平成28年度事業化 平成30年度用地着手 令和2年度工事着手	46 46	・地元情勢の変化等事業を巡る社会経済情勢等に大きな変化が見られない	用地進捗率:約70% 事業進捗率:約25% (令和4年3月末時点)	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度は以下内容を実施 調査推進: 調査設計 用地買収推進: 横瀬地区用地買収 用地補償: 支障物件移設補償 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続きコスト縮減に取り組んでいく。 技術の進展に伴う新工法の採用等による新たなコスト縮減に努めながら事業を推進する。 建設発生土の有効活用や新技術の活用等によりコスト縮減を図る。

九州地方整備局の事業進捗等について

事業名 (箇所名)	実施箇所	事業期間等	総事業費(億円) 上段:前回評価時 下段:現時点	事業を巡る社会経済情勢等の変化	主な事業の進捗状況	主な事業の進捗の見込み	コスト縮減や代替案等の可能性
東九州自動車道 清武JCT～北郷	自:宮崎県宮崎市 至:宮崎県日南市	平成10年度事業化 平成17年度用地着手 平成17年度工事着手	1,622 1,622	・地元情勢の変化等事業を巡る社会経済情勢等に大きな変化が見られない	用地進捗率:100% 事業進捗率:約92% (令和4年3月末時点) 平成24年度: 清武JCT～清武南IC 延長1.2km(2/4)部分開通	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度は以下内容を実施 調査推進: 調査設計 用地補償: 支障物件移設補償 工事推進: 鏡洲地区ほか改良工 赤木地区ほか舗装工 赤木地区ほか道路付属物工 猪八重トンネル付属物工 清武南IC～日南北郷IC L=17.8km(2/4) 令和4年度開通予定※ ※引き続き、芳ノ元トンネル周辺の地すべり対策が順調に進捗した場合 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続きコスト縮減に取り組んでいく。 技術の進展に伴う新工法の採用等による新たなコスト縮減に努めながら事業を推進する。 建設発生土の有効活用や新技術の活用等によりコスト縮減を図る。
国道218号 五ヶ瀬高千穂道路	自:宮崎県西臼杵郡 五ヶ瀬町 至:宮崎県西臼杵郡 高千穂町	平成30年度事業化 令和2年度用地着手 令和3年度工事着手	470 559	・地元情勢の変化等事業を巡る社会経済情勢等に大きな変化が見られない	用地進捗率:約16% 事業進捗率:約7% (令和4年3月末時点)	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度は以下内容を実施 調査推進: 調査設計 用地買収推進: 室野地区ほか用地買収 用地補償: 支障物件移設補償 工事推進: 室野地区ほか改良工 童里トンネル工着手 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続きコスト縮減に取り組んでいく。 技術の進展に伴う新工法の採用等による新たなコスト縮減に努めながら事業を推進する。 建設発生土の有効活用や新技術の活用等によりコスト縮減を図る。
国道218号 高千穂雲海橋道路	自:宮崎県西臼杵郡 高千穂町 至:宮崎県西臼杵郡 日之影町	令和3年度事業化	160 160	・地元情勢の変化等事業を巡る社会経済情勢等に大きな変化が見られない	用地進捗率:0% 事業進捗率:約1% (令和4年3月末時点)	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度は以下内容を実施 調査設計: 調査設計 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続きコスト縮減に取り組んでいく。 技術の進展に伴う新工法の採用等による新たなコスト縮減に努めながら事業を推進する。 建設発生土の有効活用や新技術の活用等によりコスト縮減を図る。

九州地方整備局の事業進捗等について

事業名 (箇所名)	実施箇所	事業期間等	総事業費(億円) 上段: 前回評価時 下段: 現時点	事業を巡る社会経済情勢等の変化	主な事業の進捗状況	主な事業の進捗の見込み	コスト縮減や代替案等の可能性
国道220号 日南・志布志道路	【日南区間】 自: 宮崎県日南市 至: 宮崎県日南市 【志布志区間】 自: 鹿児島県志布志市 至: 鹿児島県志布志市	平成28年度事業化 平成30年度用地着手 令和元年度工事着手	319 319	・地元情勢の変化等事業を巡る社会経済情勢等に大きな変化が見られない	用地進捗率: 約85% 事業進捗率: 約36% (令和4年3月末時点)	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度は以下内容を実施 調査推進: 調査設計 用地買収推進: 益安地区ほか用地買収 宗妻地区ほか用地買収 用地補償: 支障物件移設補償 工事推進: 平野地区ほか改良工 帖地区ほか改良工 日南油津大橋下部工 内堀2号橋ほか下部工 志布志ICランプ橋ほか上部工 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続きコスト縮減に取り組んでいく。 技術の進展に伴う新工法の採用等による新たなコスト縮減に努めながら事業を推進する。 建設発生土の有効活用や新技術の活用等によりコスト縮減を図る。
国道220号 油津・夏井道路	【油津区間】 自: 宮崎県日南市 至: 宮崎県日南市 【串間・夏井区間】 自: 宮崎県串間市 至: 鹿児島県志布志市	令和元年度事業化 令和3年度用地着手 令和4年度工事着手	771 771	・地元情勢の変化等事業を巡る社会経済情勢等に大きな変化が見られない	用地進捗率: 約3% 事業進捗率: 約4% (令和4年3月末時点)	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度は以下内容を実施 調査推進: 調査設計 用地買収推進: 西方地区ほか用地買収 帖地区ほか用地買収 工事推進: 平野地区、西方地区改良工着手 夏井地区改良工着手 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続きコスト縮減に取り組んでいく。 技術の進展に伴う新工法の採用等による新たなコスト縮減に努めながら事業を推進する。 建設発生土の有効活用や新技術の活用等によりコスト縮減を図る。
国道10号 都城道路(Ⅱ期)	自: 宮崎県都城市 至: 宮崎県都城市	平成19年度事業化 平成24年度用地着手 平成28年度工事着手	356 356	・地元情勢の変化等事業を巡る社会経済情勢等に大きな変化が見られない	用地進捗率: 100% 事業進捗率: 約58% (令和4年3月末時点)	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度は以下内容を実施 調査推進: 調査設計 用地補償: 支障物件移設補償 工事推進: 太郎坊地区ほか改良工 太郎坊橋ほか下部工・上部工 床版工 令和6年度開通予定 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続きコスト縮減に取り組んでいく。 技術の進展に伴う新工法の採用等による新たなコスト縮減に努めながら事業を推進する。 建設発生土の有効活用や新技術の活用等によりコスト縮減を図る。

九州地方整備局の事業進捗等について

事業名 (箇所名)	実施箇所	事業期間等	総事業費(億円) 上段:前回評価時 下段:現時点	事業を巡る社会経済情勢等の変化	主な事業の進捗状況	主な事業の進捗の見込み	コスト削減や代替案等の可能性
国道10号 門川日向拡幅	自:宮崎県東臼杵郡 門川町 至:宮崎県日向市	昭和45年度事業化 平成12年度用地着 手 平成14年度工事着 手	314 314	・地元情勢の変化等事業を巡る社会経済情勢等に大きな変化が見られない	用地進捗率:約99% 事業進捗率:約95% (令和4年3月末時点) 平成6年度: 門川地区 延長4.9km(4/4)開通 平成9年度: 日向地区 延長4.9km(4/4)開通 平成17年度: 財光寺地区(新生町～長江北(仮)) 延長0.3km(4/4)開通 平成21年度: 財光寺地区(長江北(仮)～長江) 延長0.4km(4/4)開通 平成25年度: 財光寺地区(木原～赤岩新橋) 延長0.8km(4/4)開通	・令和4年度は以下内容を実施 ・調査設計: 調査設計 ・用地補償: 支障物件移設補償 ・工事推進: 財光寺地区改良工 財光寺地区舗装工	・引き続きコスト削減に取り組んでいく。 ・技術の進展に伴う新工法の採用等による新たなコスト削減に努めながら事業を推進する。 ・新技術の活用等によりコスト削減を図る。
国道10号 新富バイパス	自:宮崎県児湯郡新 富町 至:宮崎県宮崎市	昭和41年度事業化 昭和41年度用地着 手 昭和41年度工事着 手	195 195	・地元情勢の変化等事業を巡る社会経済情勢等に大きな変化が見られない	用地進捗率:約99% 事業進捗率:約89% (令和4年3月末時点) 昭和43年度: 新富町日置～新富町上富田 延長2.4km(2/4)部分開通 平成11年度: 新富町三納代～新富町上富田 延長1.7km(4/4)部分開通 平成19年度: 軍瀬交差点付近 延長0.6km(4/4)部分開通 平成29年度: 田中地区 延長0.8km(4/4)部分開通 日向大橋地区 延長1.0km(4/4)部分開通	・令和4年度は以下内容を実施 ・調査推進: 調査設計	・引き続きコスト削減に取り組んでいく。 ・技術の進展に伴う新工法の採用等による新たなコスト削減に努めながら事業を推進する。 ・建設発生土の有効活用や新技術の活用等によりコスト削減を図る。

九州地方整備局の事業進捗等について

事業名 (箇所名)	実施箇所	事業期間等	総事業費(億円) 上段:前回評価時 下段:現時点	事業を巡る社会経済情勢等の変化	主な事業の進捗状況	主な事業の進捗の見込み	コスト縮減や代替案等の可能性
東九州自動車道 志布志～末吉財部	自:鹿児島県志布志市 至:鹿児島県曾於市	平成9年度事業化 平成12年度用地着手 平成14年度工事着手	1,688 1,688	・地元情勢の変化等事業を巡る社会経済情勢等に大きな変化が見られない	用地進捗率:100% 事業進捗率:約99% (令和4年3月末時点) 平成21年度: 曾於弥五郎IC～末吉財部IC間 延長11.1km(2/2)部分開通 平成26年度: 鹿屋串良JCT～曾於弥五郎IC間 延長17.7km(2/2)部分開通 令和3年度: 志布志IC～鹿屋串良JCT間 延長19.2km(2/2)部分開通	・令和4年度は以下内容を実施 ・調査推進: 調査設計 ・用地補償: 事業損失補償 ・工事推進: 細山田地区ほか工事用道路撤去工	・引き続きコスト縮減に取り組んでいく。
国道3号 阿久根川内道路	自:鹿児島県阿久根市 至:鹿児島県薩摩川内市	平成27年度事業化 平成29年度用地着手 平成30年度工事着手	1,050 1,050	・地元情勢の変化等事業を巡る社会経済情勢等に大きな変化が見られない	用地進捗率:約30% 事業進捗率:約10% (令和4年3月末時点)	・令和4年度は以下内容を実施 ・調査推進: 調査設計 ・用地買収推進: 湯田地区ほか用地買収 ・用地補償: 支障物件移設補償 ・工事推進: 西目地区ほか改良工 大谷跨道橋上部工 山下川橋ほか下部工 網津トンネル工	・引き続きコスト縮減に取り組んでいく。 ・技術の進展に伴う新工法の採用等による新たなコスト縮減に努めながら事業を推進する。 ・建設発生土の有効活用や新技術の活用等によりコスト縮減を図る。
国道3号 鹿児島東西道路	自:鹿児島県鹿児島市 至:鹿児島県鹿児島市	平成13年度事業化 平成14年度用地着手 平成17年度工事着手	938 938	・地元情勢の変化等事業を巡る社会経済情勢等に大きな変化が見られない	用地進捗率:約99% 事業進捗率:約62% (令和4年3月末時点) 平成21年度: 鹿児島IC～田上IC間ランプ 延長0.4km(2/4)開通 平成25年度: 鹿児島IC～田上IC間ランプ 延長0.4km(4/4)開通 田上IC～建部IC間 延長1.8km(2/4)開通	・令和4年度は以下内容を実施 ・調査推進: 調査設計 ・用地補償: 支障物件移設補償 ・工事推進: 上荒田地区改良工 田上高架橋下部工 東西道路シールドトンネル工	・引き続きコスト縮減に取り組んでいく。 ・技術の進展に伴う新工法の採用等による新たなコスト縮減に努めながら事業を推進する。 ・建設発生土の有効活用や新技術の活用等によりコスト縮減を図る。

九州地方整備局の事業進捗等について

事業名 (箇所名)	実施箇所	事業期間等	総事業費(億円) 上段:前回評価時 下段:現時点	事業を巡る社会経済情勢等の変化	主な事業の進捗状況	主な事業の進捗の見込み	コスト縮減や代替案等の可能性
国道10号 白浜拡幅	自:鹿児島県始良市 至:鹿児島県鹿児島市	平成19年度事業化 平成22年度用地着手 平成25年度工事着手	150 150	・地元情勢の変化等事業を巡る社会経済情勢等に大きな変化が見られない	用地進捗率:100% 事業進捗率:約31% (令和4年3月末時点) 平成27年度: 大崎地区 延長0.3km(4/4)部分開通	・令和4年度は以下内容を実施 ・調査推進: 調査設計 ・用地補償: 支障物件移設補償 ・工事推進: 脇元地区改良工	・引き続きコスト縮減に取り組んでいく。 ・技術の進展に伴う新工法の採用等による新たなコスト縮減に努めながら事業を推進する。 ・建設発生土の有効活用や新技術の活用等によりコスト縮減を図る。
国道10号 鹿児島北バイパス	自:鹿児島県鹿児島市 至:鹿児島県鹿児島市	昭和50年度事業化 昭和56年度用地着手 平成4年度工事着手	555 555	・地元情勢の変化等事業を巡る社会経済情勢等に大きな変化が見られない	用地進捗率:約89% 事業進捗率:約24% (令和4年3月末時点) 平成5年度: 祇園之洲～浜町間 延長0.9km(2/4)部分開通 平成11年度: 浜町～小川町間 延長0.3km(4/4)部分開通	・令和4年度は以下内容を実施 ・調査推進: 調査設計 ・工事推進: 祇園之洲橋下部工	・引き続きコスト縮減に取り組んでいく。 ・技術の進展に伴う新工法の採用等による新たなコスト縮減に努めながら事業を推進する。 ・建設発生土の有効活用や新技術の活用等によりコスト縮減を図る。
国道220号 古江バイパス	自:鹿児島県鹿屋市 至:鹿児島県垂水市	平成元年度事業化 平成4年度用地着手 平成13年度工事着手	200 200	・地元情勢の変化等事業を巡る社会経済情勢等に大きな変化が見られない	用地進捗率:100% 事業進捗率:約78% (令和4年3月末時点) 平成19年度: 花岡町交差点～まさかり交差点間 延長3.9km(2/2)開通 平成22年度: 古里町交差点～花岡町交差点間 延長1.3km(2/2)開通	・令和4年度は以下内容を実施 ・調査推進: 調査設計 ・工事推進: 古里地区改良工	・引き続きコスト縮減に取り組んでいく。 ・技術の進展に伴う新工法の採用等による新たなコスト縮減に努めながら事業を推進する。 ・建設発生土の有効活用や新技術の活用等によりコスト縮減を図る。